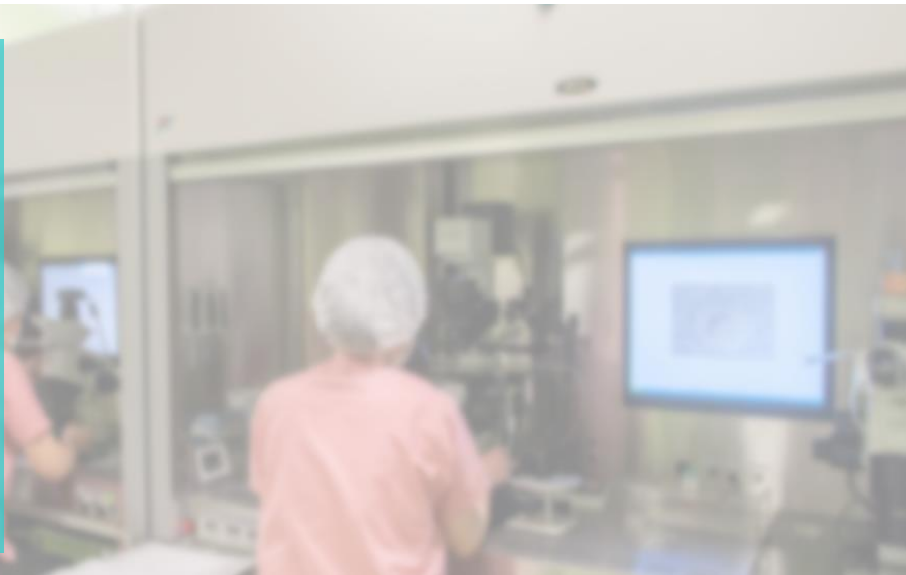


Staff interview

培養室 室長
家田 祥子
Shoko Ieda



最良の技術と知識を提供するのが
胚培養士の使命であり
不妊治療に携わる私たちの役割



Q 当クリニックにおける胚培養士の役割

赤ちゃんが欲しいと望まれる患者様のために
最良の技術と知識を提供するのが胚培養士の使命であり、不妊治療に携わる私たちの役割です。

世界初の体外受精児のルイズちゃんが誕生して今年で40年。胚培養士とはいかなるものかと最近よく問われます。
胚培養士がやるべきことはただ一つ、安全で最良な受精卵を患者様のお腹に確実に戻してあげること。
これが一番大切なことだと思います。

Q どんな人材を望みますか？

世界初の体外受精児誕生から40年が経ちますが、ART(生殖補助医療)の技術は、凄まじい発展を
してきたとは言えないでしょう。むしろ、あまり変化がないと言っても過言ではありません。

その中で、今の状況に満足することなく、
どうしたら今以上の技術向上ができるのか、安全に受精卵を作るにはどうしたら良いかなど、
日々向上心を持ち続け、何にでも問いかける胚培養士になって欲しいと考えています。
また、そのような人材育成を目指して私たちも日々教育・指導を行なっています。

受精卵は命になる尊いものです。
その意識をいつも持ち続けることが一番大切だと思います。
「患者様は今何を感じているのかな。何を望んでいるのかな。」と思いやりを持って
接することが出来る方と一緒に仕事がしたいと思っています。

Q 求職者の方へメッセージ！

胚培養士という仕事は肉体的にも精神的にもハードだと思います。
当院のスタッフも日々ルーチンで仕事をこなしながら、技術向上のために
練習したり、新しい培養方法を確立するために研究をしたりとハードな毎日を送っています。

ならばどうして胚培養士という仕事をしているのか？と問われると
『やり甲斐のある仕事』と胸を張って言えるからではないでしょうか。

長い人生の中で、誰かのために自分の手で何かをしてあげること、
誰かのために笑顔にしてあげること、そして「ありがとう」と感謝されること、
それを仕事にできることは素晴らしいことだと思います。

「みなとみらい夢クリニックで胚培養士になって良かった」と一人でも多くの
胚培養士を目指している方に共感してもらえるよう、クリニック全体で
皆さんをバックアップしていきます。是非当院の扉をたたいてみてください。



治療実績はこちら➡